

日本の気候変動2025の公表について

福岡管区気象台・沖縄気象台

「日本の気候変動2025」作成の経緯

- **世界の動き**

気候変動が世界及び各地域で進行→ **2015年にパリ協定の採択・発効（2°C目標）**

- **日本の動き**

気候変動適応法に基づく気候変動適応計画を閣議決定（2018年）

→気候変動対策は科学的知見に基づいて実施

- **気象庁・文部科学省**

気候変動対策の基盤情報として自然科学的知見を取りまとめ

→ 『日本の気候変動2020』を作成

国民、事業者、地方公共団体、国に使っていただくことを想定
実際に、環境省の『気候変動影響評価報告書』等で活用

今年度、最新の知見・成果を盛り込んだ『日本の気候変動2025』を作成

→ **2025年3月中旬頃公開予定** <https://www.data.jma.go.jp/cpdinfo/ccj/index.html>

「日本の気候変動2025」について

日本における気候変動に関して観測結果と将来予測を取りまとめた資料

- ✓ 日本及びその周辺における大気中の温室効果ガスの状況
- ✓ 気候システムを構成する諸要素（気温や降水、海面水位、海水温など）の観測結果と将来予測
- ✓ 将来の気候は、以下の2つのシナリオに基づき予測

「パリ協定の2°C目標が達成された世界」 2°C上昇シナリオ（SSP1-2.6/RCP2.6）

「追加的な緩和策を取らなかった世界」 4°C上昇シナリオ（SSP5-8.5/RCP8.5）

以下の各資料で構成

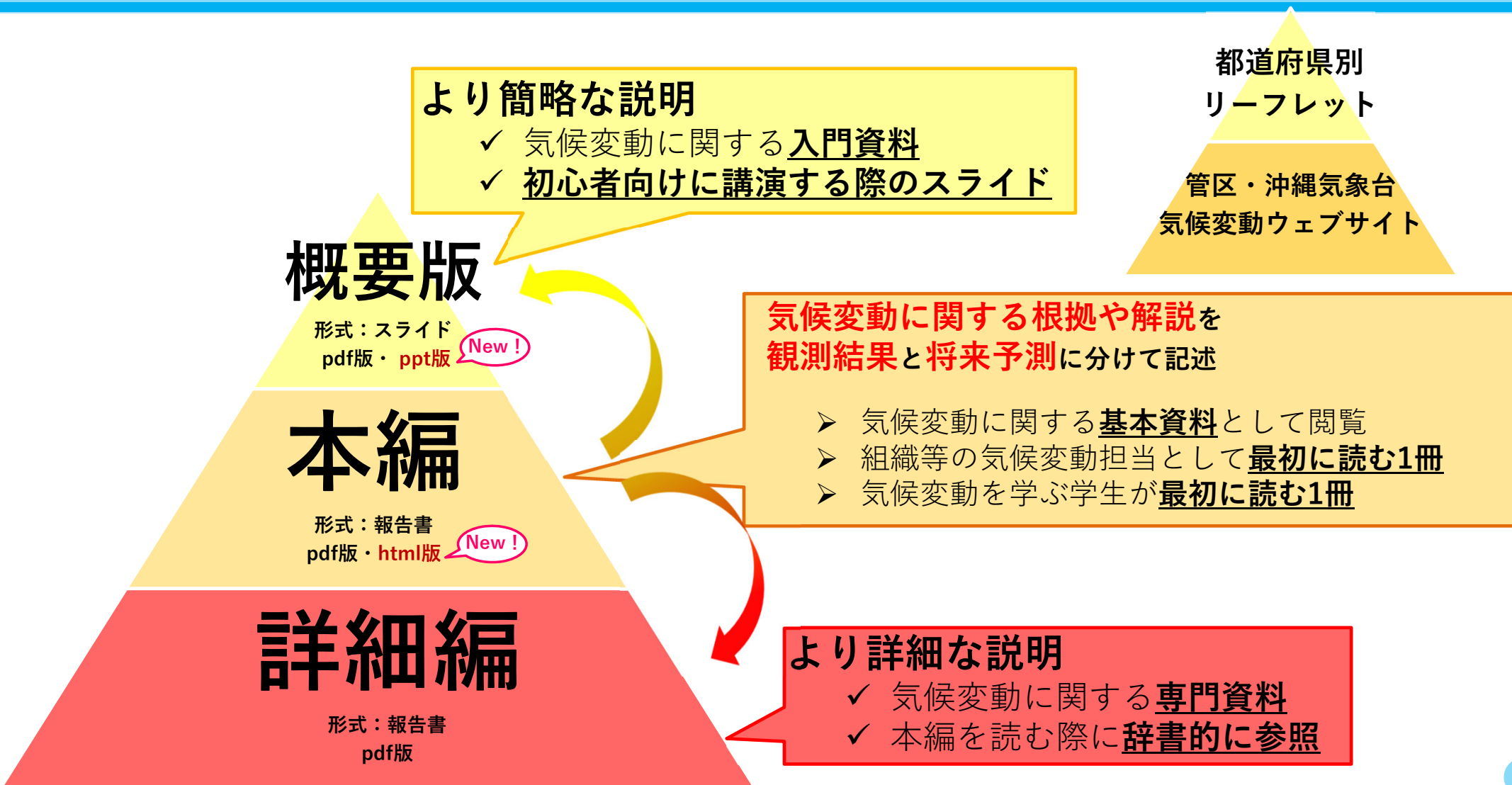
- 概要版
- 都道府県別リーフレット
- 本編
- 解説動画
- 詳細編
- 素材集

日本の
気候変動
2025
(作成中)

「2020」と比べると・・・

- ✓ 最新の情報を反映
- ✓ より充実させた内容

「日本の気候変動2025」の構成



より簡略な説明

- ✓ 気候変動に関する入門資料
- ✓ 初心者向けに講演する際のスライド

概要版

形式：スライド
pdf版・ppt版 **New!**

都道府県別
リーフレット

管区・沖縄気象台
気候変動ウェブサイト

気候変動に関する根拠や解説を
観測結果と将来予測に分けて記述

- 気候変動に関する基本資料として閲覧
- 組織等の気候変動担当として最初に読む1冊
- 気候変動を学ぶ学生が最初に読む1冊

本編

形式：報告書
pdf版・html版 **New!**

詳細編

形式：報告書
pdf版

より詳細な説明

- ✓ 気候変動に関する専門資料
- ✓ 本編を読む際に辞書的に参照

「日本の気候変動2020」からの主な改善点

- **最新の科学的知見及び成果を反映**

- IPCC第6次評価報告書など、新たに公表された論文等の文献から収集した最新情報を掲載
- 共通社会経済経路（SSP）シナリオに基づいた評価を可能な限り行った

- 観測結果では、**可能な限り最新の期間（～2024年）**までデータを延長

- 将来予測では、**最新の気候モデルを用いた結果**を使用

New!

- **極端現象（大雨・高温）の100年当たりの発生頻度の変化を具体的な数値を用いて評価**

温暖化の程度	1.5℃上昇	2℃上昇	4℃上昇
100年当たりの発生頻度	1回	約XX回	約XX回

New!

- **過去→現在→未来までの気候変動を連続的に理解できるように**情報を提供

New!

- 本編はpdf版に加えて**html版**も掲載。ウェブサイトで**図と元データ**も**取得可能!**

「日本の気候変動2025」リーフレット（福岡版）

「日本の気候変動2025」に基づいた、都道府県別リーフレットも作成
自分が住む町の気候変動を実感できるような内容

福岡県の気候変動

気温の上昇

これまでの変化
100年あたり **XX°C** 上昇※

福岡の年平均気温

年	年平均気温 (°C)
1975	16.5
1980	16.8
1985	17.1
1990	17.4
1995	17.7
2000	18.0
2005	18.3
2010	18.6
2015	18.9
2020	19.2

大雨の増加

これまでの変化

九州北部地方の1時間降水量50mm以上の回数

年	回数
1975	0.2
1980	0.3
1985	0.4
1990	0.5
1995	0.6
2000	0.7
2005	0.8
2010	0.9
2015	1.0
2020	1.1

年間熱帯夜日数

項目	日数
福岡県平均の20世紀末の観測値	XX日
21世紀末 (2°C / 4°C 上昇シナリオ) の予測値	約XX日 / 約XX日

海面水温の上昇

東シナ海北部の年平均海面水温は、20世紀末と比べて、**2°C 上昇シナリオでは約XX°C、4°C 上昇シナリオでは約XX°C 上昇**

台風強度の増大

日本付近の台風強度※2は**強まる**
台風に伴う降水量も**増加**

温暖化の程度に応じた予測

温暖化の程度	1.5°C 上昇	2°C 上昇	4°C 上昇
九州北部地方の予測	2023-2042年頃 ※2	2018-2037年頃	2032-2051年頃
100年当たりの発生頻度	1回	約XX回	約XX回

20世紀末には100年に一回しか起こらなかった大雨※1が**より頻繁に**

観測データ※3による推定では、100年に一回の大雨 (日降水量) は、福岡では約XXmmです。温暖化が進むと、こうした大雨がより頻繁に発生します。

令和7年3月 福岡管区气象台

本リーフレット中の各アイコンは情報の空間スケールを示します：
都道府県スケールの情報
地方スケールの情報
全国スケールの情報

「日本の気候変動2025」リーフレット（沖縄版）

「日本の気候変動2025」に基づいた、都道府県別リーフレットも作成
自分が住む町の気候変動を実感できるような内容

沖繩本島地方の気候変動

気温の上昇 大雨の増加

2℃上昇シナリオ 沖繩本島・大東亜地方 約1.0℃上昇

4℃上昇シナリオ

年平均気温の将来予測（21世紀末）
20世紀末からの上昇量（シナリオの詳細は裏面参照）
狭い領域の変化は不確実性が大きい。なるべく広範囲の変化に着目ください。

海面水温の上昇 台風強度の増大

このリーフレットでは、「日本の気候変動2025」（文部科学省・気象庁）に基づき、これまでの気候の変化と将来予測に関する情報をまとめています。沖繩地方の気候の変化については、気象庁ホームページからもご覧いただけます。

令和7年3月 沖繩気象台

気象庁ホームページ「日本の各地域における気候の変化」

気温の上昇

これまでの変化

100年あたり $X.X^{\circ}\text{C}$ 上昇

那覇の年平均気温

トレンド+1.2（21世紀末）
●：毎年の気温（ $^{\circ}\text{C}$ ）
○：長期平均気温（1976-2023）
△：観測開始の経緯（詳細のデータは補注済）
×：欠測期間によるデータ欠損

雨の降り方の極端化

これまでの変化

沖繩地方の3時間降水量80mm以上の回数

近年の豪雨事例の中には、地球温暖化に伴う水蒸気量の増加も影響しているものがある。

増加しているとみられます

未の予測

バケツをひっくり返したようなイメージの1時間30mm以上の「激しい雨」が3時間続くような降水量です。

末と比べて、沖繩地方の年間発生回数は、
100mm以上の年間発生回数は、
上昇シナリオでは約 $X.X$ 倍、4℃上昇シナリオでは約 $X.X$ 倍に増加

土砂災害や洪水等のリスク増加

雨の降らない日は年間、4℃上昇シナリオでは約 XX 日増加
※2℃上昇シナリオの予測は信頼性が低いので評価できません。

温暖化の程度に応じた予測

20世紀末には100年に一回しか起こらなかった大雨^{※1}がより頻繁に

沖繩地方の予測

温暖化の程度	1.5℃上昇	2℃上昇	4℃上昇
20世紀末	2023-2042年頃	2023-2042年頃	2023-2042年頃
100年当たりの発生頻度	1回	約 XX 回	約 XX 回

各シナリオにおけるおおよその年代
2℃上昇シナリオ（2023-2042年頃）
4℃上昇シナリオ（2023-2042年頃）

観測データ^{※1}による推定では、100年に一回の大雨（日降水量は、影響では約 $XX\text{mm}$ ）です。温暖化が進むと、こうした大雨がより頻繁に発生します。

※1 温暖化に伴う気候の変化を解析した様々な研究成果に基づきます。
※2 中心付近の気温または風の強さ

東シナ海南部の年平均海面水温は、20世紀末と比べて、
2℃上昇シナリオでは約 $XX^{\circ}\text{C}$ 、
4℃上昇シナリオでは約 $XX^{\circ}\text{C}$ 上昇

日本付近の台風強度^{※2}は強まる
台風に伴う降水も増加

※1 温暖化に伴う気候の変化を解析した様々な研究成果に基づきます。
※2 中心付近の気温または風の強さ

本リーフレット中の各アイコンは情報の空間スケールを示します：
ある地点の情報 都道府県スケールの情報 地方スケールの情報 全国スケールの情報